

委員名	意見
A委員	〈観光交流客数〉 ・総合戦略に用いている観光交流客数について、観光基本計画と同じ定義及び集計方法によっているか確認したい。宿泊客数、イベント来場者数、市内観光施設の利用客数とされているが、自身が把握している数値と年間で約18万人の差があり、1日当たりでは約500人の差となる。庁内で数値を統一していただきたい。 → 観光交流客数は担当課から提供を受けたデータである。観光課の計画との整合については、改めて確認する。（事務局回答）
B委員	〈人口推計〉 ・まち・ひと・しごと創生総合戦略では、国立社会保障・人口問題研究所の推計による人口減少の度合いと、市独自の実態値を示すことが多いと思うが、第2期及び第3期にはそうした記載がない。理由はあるか。 → 総合計画に加え、伊豆の国市人口ビジョンを別に策定しており、これを勘案した上で作成している。総合戦略上に詳細の記載はないが、別途、人口ビジョンにおいて整理している。（事務局回答）
C委員	〈担い手の確保〉 ・担い手不足の項目における「若者」が、どの年代や対象を指すのかが見えない。人口減少を緩和するための施策であれば、地元の中高生というように定義を明確にしてもよいのではないか。 → 計画上、「若者」の明確な年齢の定義は置いていない。中高生や、市外へ転出した後にUターンして担い手となる方も含め、広く捉えるためにこの語を用いている。（事務局回答）
D委員	〈データの活用〉 ・第3期総合戦略の推進に当たっては、最終的なKPIだけでなく、中間指標に関わるデータについても継続的に収集・分析し、その結果を政策立案や改善に活用するためのデータ活用基盤を整備することで、より実効性の高い取組につながると考える。